

食品ロスの削減について

【現状と課題】

- ・燃やすごみの減量に向けては、燃やすごみに占める組成割合が約4割と最も大きい生ごみの減量対策が重要と考えられる。
- ・生ごみの中には「食品ロス」が多くあると考えられ、食品ロスの削減に向けた取り組みを進めていく必要がある。

<食品ロスとは>

まだ食べられるのに廃棄される食品のこと。

- ア) 食べ残し
- イ) 直接廃棄（賞味期限切れ等により使用されずにそのままを廃棄）
- ウ) 過剰除去（大根の皮むきなど、食べられる部分を過剰に除去）

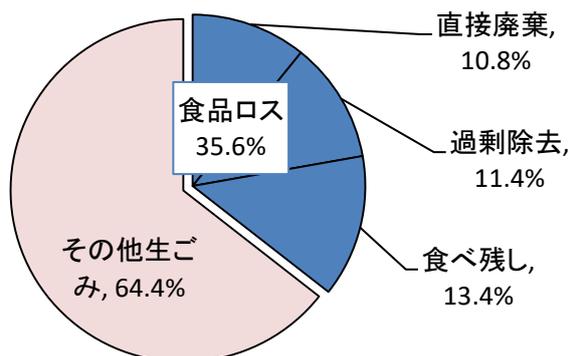
<家庭から出る食品ロスの推計>

	1年間	1人1日あたり	備考
燃やすごみ収集量 (平成30年度実績)	74,854 t	約416 g	
生ごみ排出量(推計)	約27,500 t	約153g	燃やすごみの組成割合 36.8% ※1
食品ロス(推計)	約9,800 t	約55g	食品ロス割合 35.6% ※2

※1 平成30年度家庭系ごみ質調査結果

※2 環境省「平成30年度 食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取り組みに係る実態調査 報告書」より

生ごみの組成割合（上記※2より）



【施策の方向性】

① 食品ロス削減に向けた広報・啓発の強化

- ・食べ残しの他、賞味期限切れや調理時の過剰除去により、一般家庭で食品ロスが発生していることや「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」に参加したことで得られる情報などを様々な広報媒体を通じて情報発信し認識してもらう。
- ・具体的な削減への取り組み方を出前説明会等で市民と直接コミュニケーションをとりながら周知していく。
- ・市内商店で余っている食品の情報を案内するフードシェアリングアプリ等の活用を関係部署と連携しながら行い、食品ロス削減につなげる。

② 学校での食品ロス学習の実施

- ・教育現場と協力し、小学生を対象に食品ロスについて映像教材や啓発ソングを活用した学習を行い、子どもたちに食べものの大切さや食品ロス削減のために何ができるかを伝えながら食品ロス削減の取り組みを行っていく。

③ フードドライブの普及・促進

- ・フードドライブを、市民の目に触れる公共施設やイベントで積極的に開催し、広く認知してもらえるよう取り組む。
- ・フードバンクいちかわと相互に情報を交換するなど連携を図っていく。

④ 事業者との連携・協働

- ・千葉県で行っている「ちば食べきりエコスタイル」協力店への登録を促し、外食における「食品ロス」の削減を図る。
- ・3010運動の周知啓発。宴会等で発生する「食品ロス」の削減を図る。

⑤ その他生ごみの減量施策の推進

- ・生ごみの重量の約8割を占める水分を減らすことで、腐敗や悪臭の防止やごみの減量によるごみ収集車の燃費向上や焼却時の燃焼効率の向上にも効果的なことから生ごみの水切りを促進する。
- ・コンポスト容器等を活用した減容化・堆肥化の促進などにより、各家庭における生ごみの減量対策を促進していく。

学校での食品ロス学習

取り組み



学ぶ

食品ロスについての学習

教材学習（座学）

取り組む

給食の食べきりチャレンジ

食べきりソング（給食時の校内放送）

効果測定

アンケート・残渣量比較

意識の変化、給食日誌データ集計

食べきりソング

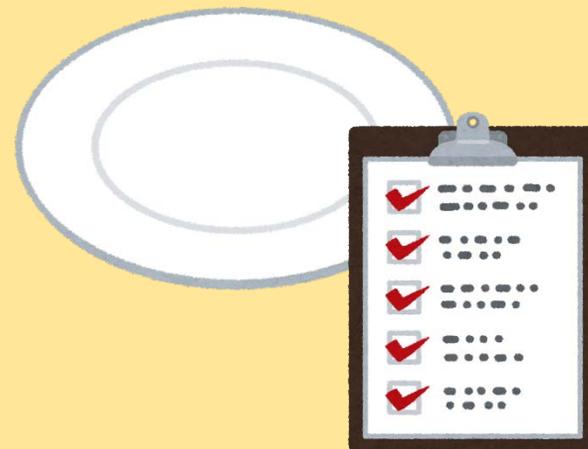
給食時に校内放送で「食べきりソング」



今まで



チャレンジ後



食べきれた